



## 平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年11月7日

上場取引所 東

上場会社名 沢井製薬株式会社

コード番号 4555 URL <http://www.sawai.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 澤井 光郎

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経営管理部長 (氏名) 末吉 一彦

四半期報告書提出予定日 平成26年11月10日

配当支払開始予定日

TEL 06-6105-5711

平成26年12月5日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成27年3月期第2四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	50,202	17.4	10,225	1.7	10,175	0.2	6,997	8.0
26年3月期第2四半期	42,746	11.2	10,050	25.0	10,157	23.8	6,476	18.4

(注) 包括利益 27年3月期第2四半期 7,057百万円 (5.1%) 26年3月期第2四半期 6,714百万円 (10.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	190.40	190.21
26年3月期第2四半期	212.04	175.01

(注) 平成25年10月1日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第2四半期	158,086	106,656	67.4
26年3月期	149,348	101,302	67.8

(参考) 自己資本 27年3月期第2四半期 106,563百万円 26年3月期 101,233百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	90.00	—	50.00	—
27年3月期	—	50.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	50.00	100.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 平成25年10月1日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため、平成26年3月期における第2四半期末の配当金につきましては、株式分割前の額を記載しておりますが、期末の配当金につきましては、株式分割後の額を記載しております。

### 3. 平成27年 3月期の連結業績予想(平成26年 4月 1日～平成27年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	106,000	18.0	21,000	10.0	20,900	9.5	13,500	10.7	367.32

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期2Q	38,129,388 株	26年3月期	38,125,988 株
② 期末自己株式数	27年3月期2Q	1,368,067 株	26年3月期	1,384,567 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期2Q	36,752,612 株	26年3月期2Q	30,545,456 株

(注)平成25年10月1日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、株式数を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

当社は、平成26年11月10日に機関投資家及びアナリスト向けの四半期決算説明会を開催する予定です。その模様及び説明内容については、当日使用する決算説明資料とともに、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日～平成26年9月30日）におけるわが国経済は、消費税率引き上げ前の前期末の駆け込み需要の反動により個人消費の一部落ち込みが見られたものの、企業収益の改善を背景とした設備投資の増加や雇用環境の着実な改善等から景気は緩やかな回復基調が続きました。その一方で、建設関係費用の高騰、人材の確保難やさらなる円安進行による原材料価格の上昇など、内需中心の企業にとっては経営環境の悪化が見られました。

ジェネリック医薬品業界におきましては、平成25年4月に厚生労働省から公表された「後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ」を受け、調剤薬局におけるジェネリック医薬品使用促進に向けた調剤体制加算要件の見直し、DPC病院におけるジェネリック医薬品使用促進策の導入などを含む平成26年度診療報酬改定が4月から実施されたことに伴い、薬局市場のみならず、病院市場におけるジェネリック医薬品の需要も大きく伸びました。しかしながら、薬価に関しては、新規収載ジェネリック医薬品の薬価の大幅な引き下げや、既収載ジェネリック医薬品の薬価の3つの価格帯への集約を骨子とした非常に厳しい薬価制度が導入されたことから、4月の薬価改定と相まって、当期の収益環境は厳しいものとなりました。

このような状況において、当社グループは、最終年度を迎える中期経営計画「M1 TRUST 2015」の基本方針にそって、各部門が掲げた施策に積極的に取り組みました。6月には、大型製品である「バルサルタン錠」、「ロサルヒド配合錠LD」のほか、ジェネリック医薬品としては当社1社のみの製品である「カルベジロール錠1.25mg/2.5mg」などを含む6成分11品目の新製品を上市し、販売を開始しました。この中でも、「バルサルタン錠」と「ロサルヒド配合錠LD」については、当社が開発し、実用新案が登録された「医薬品の個装箱用の『切り離し両面カード』」を初めて導入いたしました。また、OD錠に初めてレーザー印刷を行った抗血小板薬シロスタゾールOD錠「サワイ」（平成25年6月上市）に関する当社の高い技術力が評価され、本年5月に公益社団法人日本薬剤学会より「旭化成創剤開発技術賞」を受賞しました。同じく5月に、今後特許切れが見込まれる配合剤を始めとする難易度の高い製剤の開発や既存製品の積極的な改良を行うため、大阪府吹田市に新しい開発拠点となる「開発センター」の建設に着手しました。

生産・供給体制面においては、今後もジェネリック医薬品の大幅な需要拡大が見込まれる中、4月に「安定供給管理責任者」1名及び「安定供給責任者」3名の任命による組織的な体制の強化を行うとともに、年間生産能力100億錠体制の次を見据えた供給力の増強を図るべく6月に田辺三菱製薬工場株式会社鹿島工場の譲受に関する基本合意の締結を行うなど、高品質な製品の安定供給体制をより確かなものとするための取り組みを着々と進めました。

営業面においては、平成26年4月からの新薬価制度では、既収載ジェネリック医薬品の薬価が、自社製品の販売価格に応じて先発品の薬価を基準に設定される3つの価格帯のいずれかに区分されることとなったことを受けて、一部に低価格戦略を取るメーカーが現れてきていますが、当社は、これらの動きとは一線を画し、安定供給力、高品質・高付加価値、情報提供力などを訴求する営業活動を展開しました。

また、中期経営計画の中で「新規領域への戦略的投資」の一つとして「海外展開に向けた基盤構築の着手」を掲げておりますが、米国市場参入準備を進めていたHMG-CoA還元酵素阻害剤ビタバスタチンについて、米国食品医薬品局（FDA）に提出していた医薬品簡略承認申請（Abbreviated New Drug Application；ANDA）が5月に受理され、将来の海外展開に向けた第一歩を踏み出しました。

同じく、「新規領域への戦略的投資」の一つとして「バイオシミラー市場への参入検討」を掲げておりますが、9月に、サンド株式会社との間で、同社が製造販売承認を有する遺伝子組換えヒト顆粒球コロニー刺激因子（G-CSF）製剤『フィルグラスチムBS注75μg/150μg/300μgシリンジ「サンド」』（バイオ後続品）を日本国内で共同販売することに合意し、当社として初めてバイオシミラー市場に参入することとなりました。11月下旬の薬価基準収載後、販売を開始する予定です。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は50,202百万円（前年同期比17.4%増）、営業利益が10,225百万円（前年同期比1.7%増）、経常利益が10,175百万円（前年同期比0.2%増）、四半期純利益が6,997百万円（前年同期比8.0%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### ①資産、負債及び純資産の状況

#### (資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は100,780百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,726百万円増加いたしました。これは主に、たな卸資産が4,657百万円、受取手形及び売掛金が1,771百万円増加したことと、現金及び預金が3,222百万円減少したことによるものであります。固定資産は57,305百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,011百万円増加いたしました。

この結果、総資産は158,086百万円となり、前連結会計年度末に比べ8,737百万円増加いたしました。

#### (負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は43,399百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,302百万円増加いたしました。これは主に、支払手形及び買掛金が1,922百万円、未払金が1,501百万円、短期借入金が1,419百万円増加したことと、未払法人税等が1,210百万円減少したことによるものであります。固定負債は8,030百万円となり、前連結会計年度末に比べ918百万円減少いたしました。

この結果、負債合計は、51,430百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,383百万円増加いたしました。

#### (純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は106,656百万円となり、前連結会計年度末に比べ5,354百万円増加いたしました。これは主に、四半期純利益の計上6,997百万円、剰余金の配当1,836百万円によるものであります。

この結果、自己資本比率は67.4%（前連結会計年度末は67.8%）となりました。

### ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は22,314百万円となり、前連結会計年度末に比べて3,222百万円減少いたしました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益10,139百万円、減価償却費2,750百万円、たな卸資産の増加4,657百万円、売上債権の増加2,660百万円、仕入債務の増加1,927百万円、法人税等の支払額4,507百万円を主因として3,826百万円の収入（前年同期比4,692百万円収入減）となりました。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出4,653百万円、無形固定資産の取得による支出718百万円を主因として5,656百万円の支出（前年同期比1,212百万円の支出増）となりました。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の純増1,600百万円、長期借入金の返済による支出1,250百万円、配当金の支払額1,836百万円を主因として、1,391百万円の支出（前年同期比204百万円の支出増）となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、第2四半期の業績がほぼ計画に近い進捗であることから、平成26年5月14日に公表した通り、売上高106,000百万円（前期比18.0%増）、営業利益21,000百万円（同10.0%増）、経常利益20,900百万円（同9.5%増）、当期純利益13,500百万円（同10.7%増）から変更しておりません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

第1四半期連結会計期間より「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 平成25年12月25日)を適用しております。なお、第1四半期連結会計期間の期首より前に締結された信託契約であるため、従来採用していた方法により会計処理を行っており、これによる連結財務諸表への影響はありません。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	25,536	22,314
受取手形及び売掛金	28,344	30,115
電子記録債権	426	1,316
商品及び製品	19,098	21,555
仕掛品	10,055	11,056
原材料及び貯蔵品	10,029	11,229
繰延税金資産	2,160	2,360
その他	415	844
貸倒引当金	△13	△11
流動資産合計	96,054	100,780
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	22,319	23,995
機械装置及び運搬具(純額)	13,360	15,848
土地	7,619	7,631
リース資産(純額)	57	49
建設仮勘定	2,496	1,552
その他(純額)	1,987	1,989
有形固定資産合計	47,841	51,065
無形固定資産	1,847	2,237
投資その他の資産		
投資有価証券	3,238	3,630
長期前払費用	65	57
その他	326	340
貸倒引当金	△25	△25
投資その他の資産合計	3,604	4,003
固定資産合計	53,294	57,305
資産合計	149,348	158,086

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	16,157	18,079
短期借入金	2,256	3,675
リース債務	17	17
未払金	12,583	14,085
未払法人税等	4,650	3,439
賞与引当金	1,346	1,447
役員賞与引当金	57	43
返品調整引当金	72	69
売上割戻引当金	1,273	1,973
その他	682	566
流動負債合計	39,097	43,399
固定負債		
長期借入金	6,373	5,304
リース債務	44	35
繰延税金負債	177	217
退職給付に係る負債	56	51
長期預り金	1,742	1,886
その他	553	535
固定負債合計	8,948	8,030
負債合計	48,046	51,430
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	27,106	27,112
資本剰余金	27,505	27,542
利益剰余金	52,490	57,651
自己株式	△6,356	△6,288
株主資本合計	100,746	106,017
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	486	546
その他の包括利益累計額合計	486	546
新株予約権	68	92
純資産合計	101,302	106,656
負債純資産合計	149,348	158,086



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	42,746	50,202
売上原価	22,262	28,190
売上総利益	20,484	22,012
販売費及び一般管理費	10,433	11,786
営業利益	10,050	10,225
営業外収益		
受取利息	69	0
受取配当金	30	47
受取補償金	75	24
その他	41	14
営業外収益合計	218	87
営業外費用		
支払利息	51	73
売上債権売却損	20	29
その他	39	34
営業外費用合計	111	137
経常利益	10,157	10,175
特別利益		
投資有価証券売却益	4	—
特別利益合計	4	—
特別損失		
固定資産除却損	84	35
特別損失合計	84	35
税金等調整前四半期純利益	10,077	10,139
法人税、住民税及び事業税	3,741	3,334
法人税等調整額	△141	△192
法人税等合計	3,600	3,142
少数株主損益調整前四半期純利益	6,476	6,997
少数株主損失(△)	△0	—
四半期純利益	6,476	6,997

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	6,476	6,997
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	237	59
その他の包括利益合計	237	59
四半期包括利益	6,714	7,057
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,714	7,057
少数株主に係る四半期包括利益	△0	—

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位：百万円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	10,077	10,139
減価償却費	2,463	2,750
売上債権の増減額(△は増加)	△17	△2,660
たな卸資産の増減額(△は増加)	△4,589	△4,657
仕入債務の増減額(△は減少)	2,668	1,927
未払金の増減額(△は減少)	695	481
その他	130	378
小計	11,429	8,358
利息及び配当金の受取額	31	48
利息の支払額	△62	△73
法人税等の支払額	△3,238	△4,507
法人税等の還付額	359	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,518	3,826
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△3,326	△4,653
有形固定資産の売却による収入	65	15
無形固定資産の取得による支出	△187	△718
投資有価証券の取得による支出	△999	△299
投資有価証券の売却による収入	8	—
子会社株式の取得による支出	△16	—
長期貸付金の回収による収入	12	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,444	△5,656
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	1,600	1,600
長期借入金の返済による支出	△1,376	△1,250
新株予約権の行使による株式の発行による収入	34	6
自己株式の売却による収入	79	98
自己株式の取得による支出	△0	—
配当金の支払額	△1,515	△1,836
その他	△9	△8
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,187	△1,391
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,887	△3,222
現金及び現金同等物の期首残高	20,583	25,536
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△7	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	23,462	22,314

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。